

2025 年 1 月 8 日

課題名： 浅大腿動脈完全閉塞病変に対して薬剤溶出性バルーンで治療を行った症例の
血管内超音波解析による予後の検討

◆研究の目的と概要◆

当院では、経皮的血管形成術（EVT）の予後に関して調べています。浅大腿動脈（SFA）の病変では薬剤溶出性バルーン（DCB）の治療が一般的になりつつあります。治療には血管内超音波（IVUS）を用いて至適バルーンサイズや治療デバイスの選択を行います。定まった基準があるわけではありません。

本研究では、SFA の病変で DCB で治療を行った症例で IVUS による血管性状が予後に及ぼす影響を調べ、今後のよりよい診療を行うことを目的としています。

◆対象となる患者さん◆

2021 年 1 月から 2023 年 12 月に浅大腿動脈に対して初めて EVT 施行され、DCB のみで治療を行った方。

◆研究に使用される情報・試料◆

研究対象者背景：性別、年齢、身長、体重、既往歴、家族歴、生活歴、内服内容、EVT の診断、併存疾患の有無、EVT 手技内容・合併症の情報、治療前の血液検査データ、治療前の下肢動脈エコーデータ、ABI（足関節/上腕血圧指数）、再治療の有無

EVT 時の下肢動脈造影画像所見、EVT 時の血管内イメージング画像所見

EVT 治療後から 2024 年 12 月まで（入院中および退院後）の転帰

◆情報の研究利用開始日◆

2025 年 2 月 1 日 以降

◆研究方法◆

本研究は過去の診療録（カルテ）等からの情報利用します。

-
- * 研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる情報は利用しません。
 - * 本研究に関するお問い合わせや、カルテ情報の利用についてご了承ください。以下のお問い合わせ先までメールでご連絡ください。ただし、解析中または、既に学会等で発表されたデータについては、削除できないことがありますことをご了承ください。

【問い合わせ先】

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院

循環器内科 研究責任者 島裕樹

E-mail: kenkyu★chnet.or.jp（臨床研究センター）

（★を@に変換して使用してください）

この研究課題で利用する残余検体・診療情報等の利用については、医の倫理委員会によって当該既存試料を用いなければ研究の実施が困難である等の理由が認められ、実施についての承認が得られています。

※【問い合わせ先】では、次の事項について受け付けています。

- 研究計画書および研究の方法に関する資料の閲覧（又は入手）ならびにその方法
（他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲内に限られます。）
- 研究対象者の個人情報についての開示およびその手続
- 研究対象者の個人情報についての利用目的の通知
- 研究対象者の個人情報の開示、訂正等、利用停止等について、請求に応じられない場合にはその理由の説明